

子どもの感染症一覧表

(令和5年11月改正) (小規模事業所等 参考資料 8)

| 病名 | 病状の特徴及び経過 | 潜伏期 | 感染経路 | 登園基準 | 予防接種 | その他注意事項 |
|---------------------|---|--|-------------------------------------|--|------|--|
| インフルエンザ | 発熱(38°C以上)悪寒、頭痛、筋肉痛、倦怠感、咽頭痛、咳 | 1~4日 | 飛沫感染 接触感染 | 発症した後5日を経過しがつ、解熱した後3日を経過するまで | ○ | 肺炎、中耳炎等の合併症 |
| 百日咳 | 病初期よりしつこい咳 発熱はあまりない。連続性、発作性の特有の咳が続く | 7~10日 | 飛沫感染 接触感染 | 特有の咳がどれまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで | ◎ | 無呼吸発作、肺炎、中耳炎、脳症等の合併症 |
| 麻疹(はしか) | せき、眼やに、高熱、口中にコプリック斑。顔面に次ぎ身体、手足へ発疹 | 8~12日 | 飛沫感染 空気感染 接触感染 | 発疹に伴う発熱が解熱後3日 | ◎ | 肺炎、中耳炎等の合併症 |
| 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) | 耳下腺(耳たぶの下)が急に腫れる痛みを伴い酸っぱいものの飲食で増す | 16~18日 | 飛沫感染 接触感染 | 耳下腺、頸下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過しがつ、全身状態が良好になるまで | ○ | 無菌性齶膜炎、難聴等の合併症 |
| 風疹 | 発熱と同時にバラ色の発疹が出現し、約3日で消える 頭部、耳後部のリンパ節腫脹 | 16~18日 | 飛沫感染 接触感染 | 発疹が消失するまで | ◎ | 齶膜炎や紫斑病の合併症 |
| 水痘(水ぼうそう) | 身体と首から顔面に発疹 紅斑、水疱、膿疱、かさぶたの順に変化する | 14~16日 | 空気感染 飛沫感染 接触感染 | 全発疹がかさぶたになるまで | ◎ | |
| 咽頭結膜熱(プール熱) | 発熱、咽頭痛、頭痛、食欲不振 眼症状として結膜充血、眼痛、眼脂 | 2~14日 | 飛沫感染 接触感染 プールでの目の結膜からの感染もある | 主要症状が消退した後2日まで | | |
| 結核 | 初期はほとんど自覚症状がなく気づきにくい。 発熱、咳、疲れやすい、食欲不振 | 3ヶ月~数10年 感染後 2年以内、特に6ヶ月以内に発病することが多い | 空気感染 | 医師において感染のおそれがないと認めるまで | ◎ | 感染症予防法における二類感染症 |
| 腸管出血性大腸菌感染症(0-157等) | 症状のないものから、下痢(水様便~血便)激しい腹痛等様々 | 10時間~6日 (0-157は主に3~4日) | 経口感染 (飲食物、便) 接触感染 | 医師において感染のおそれがないと認めるまで | | 感染症予防法における三類感染症 |
| 流行性角結膜炎(はやり目) | 眼やに、流涙、眼瞼が腫れる、結膜充血や白目に出血 | 2~14日 | 飛沫感染 接触感染 (プール水、手指等) | 医師において感染のおそれがないと認めるまで | | 眼脂、分泌物に触れない タオルなど共用しない 手洗い励行 |
| 急性出血性結膜炎 | 眼やに、流涙、眼瞼が腫れる、結膜充血や白目に出血 | 約1日 または2~3日 | 飛沫感染 接触感染 | 医師において感染のおそれがないと認めるまで | | |
| 突発性発疹 | 突然の発熱が3~4日続く 熱が下がると同時に小斑点状発疹が出現 | 9~10日 | 飛沫感染 経口感染 接触感染 | 解熱後1日以上経過し 全身状態がよいこと | | 生後6ヶ月~24ヶ月の子 が感染することが多い |
| 溶連菌感染症 | (上気道感染)発熱、のどの発赤、腫れ、痛み (猩紅熱)発熱、扁桃炎、莓状舌、発疹 | 2~5日 | 飛沫感染 接触感染 | 抗菌薬内服後24~48時間 を経過していること ただし治療の継続は必要 | | リウマチ熱、腎炎の合併症 |
| 手足口病 | 発熱、口腔内の痛みを伴う水疱 手、足脚部の水疱性丘疹 | 3~6日 | 飛沫感染 糞口感染(経口) 接触感染 | 発熱がなく(解熱後1日以上 経過し)普段の食事ができる こと 流行行止を狙っての当園停止 はウイルスの排出期間も長く現 実的でない | | 齶膜炎の合併症 回復後も数週から 数か月間、便にウ イルスが排泄される |
| ヘルパンギーナ | 発熱、のどの痛み、まれに頭痛、筋肉痛、発疹 | 3~6日 | 飛沫感染 糞口感染 接触感染 | 発熱がなく(解熱後1日以上 経過し)普段の食事ができる こと | | 齶膜炎の合併症 回復後も数週から 数か月間、便にウイルス が排泄される |
| 伝染性紅斑(りんご病) | かぜ様症状と顔面の紅斑、四肢伸側にレース状の紅斑 | 4~14日 | 飛沫感染 | 発疹が出現した頃には、す でに感染力は消失している ので、全身症状がよいこと | | 溶血性貧血や紫斑 病の合併症 |
| マイコプラズマ肺炎 | ゆっくり始まるかぜ様症状、しつこい乾咳、発熱、胸痛 | 2~3週 | 飛沫感染 | 発熱や激しい咳が治まって いること | | |
| 感染性胃腸炎(流行性嘔吐下痢症) | 嘔吐、下痢が突然はじまる | ロタ 1~3日 ノロ 12時間~48時間 | 糞口感染 食品媒体感染 接触感染 吐物からの空気感染 | 嘔吐、下痢等症状が治まり 普段の食事ができること | ◎ | 脱水症状に注意 |
| RSウイルス感染症 | 発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴、呼吸困難 | 4~6日 | 接触感染 飛沫感染 | 重篤な呼吸器症状が消 失し全身状態がよいこと | | 生後6ヶ月未満の 児は重篤化しやす い |
| 新型コロナウイルス感染症 | 無症状のまま経過することもあるが、有症状者では、発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常などの症状が見られる。 | 約5日間 | 主な感染経路は 飛沫感染、エアロゾル感染、接触感染である。 | 発症した後5日を経過しがつ 症状が軽快した後1日を経過すること※無症状の感染者の場合は、検体採取日を0日目として、5日を経過すること | ○ | 無症状の感染者の場合は、検体採取日を0日目として、5日を経過すること |
| 齶膜炎菌性齶膜炎 | 主な症状は、発熱、頭痛、嘔吐 急に重症化する | 4日以内 | 飛沫感染 接触感染 | 医師により感染の恐れがないと認められていること | ○ | |
| 帯状疱疹 | 軽度の痛みや違和感(子どもの場合ははつきりとしない)かゆみ、多数の水疱、紅斑 | 不定 | 母体の水痘罹患 子ども一度水泡に り患した場合 | すべての発しんが痂か皮(か さぶた)化していること | | |

「学校保健安全法」、「感染症予防法」及び「保育所における感染症ガイドライン」より、抜粋

登園基準は学校保健安全法における出席停止期間に準じる。医師の診断により登園しても差し支えないときはこの限りではない。

予防接種 ◎予防接種法に基づく接種 ○任意接種

